

原子力リスク研究センター（NRRC） 第4回 原子力経営責任者会議 議事録

1. 日 時：2015年11月6日（金）9：30～11:30

2. 場 所：電力中央研究所（大手町本部）役員大会議室

3. 出席者：(順不同、敬称略)

主査：アポストラキス（NRRC）

委員：酒井（北海道電力）、渡部（東北電力）、姉川（東京電力）、阪口（中部電力）、西野（北陸電力）、豊松（関西電力）、古林（中国電力）、山田（四国電力、柿木代理）、中村（九州電力）、市村（日本原電）、山本（日本原燃）、浦島（電源開発）、横山、尾本（NRRC）

オブザーバ：尾野（電事連）、倉田（原安進）

幹事：横尾・示野（NRRC）

NRRC 幹部：メザープ顧問

4. 議 事：

(1) 2016年度の研究計画について

横尾幹事より、2016年度の研究計画の予算及び計画内容について説明を行った。

（委員からの主なご意見）

- ・成果が出てくるタイミングが3年後位に示されているものが多いが、それで十分なのかどうか詳しく説明を聞きたい。
- ・別途、説明の機会を設けることを考えたい。（NRRC）

(2) NRRCの活動状況について

示野幹事より、NRRCの活動状況として、シンポジウムやTACの開催状況を紹介した。

（委員からの主なご意見）

特記事項なし。

(3) アポストラキス所長との意見交換

示野幹事より、NRRCの設立から1年の成果と課題について紹介した。

また、所長より、以下の発言があった。

- ・研究の成果をどの様に使うかというところについて、電力会社とNRRCで共通の目標・理解を持つ様にしたい。
- ・NRRCの設立から1年間、産業界と連携して取り組んできた。四国電力の伊方PRAプロジェクトなど、大きな成果が見られたと感じている。一方で、電力各社にとって、プラントの再稼働が喫緊の重要課題であることを承知しており、そのような状況の中で、中長期的な目標について共有できるように取り組みたい。

- NRRC の研究者には、より研究成果が現場で使われるということを意識して研究に従事できるように伝えている。

(委員からの主なご意見)

- 中長期的な目標を明確に共有する必要があることについては同意する。目的が明確になれば、産業界のリソースをどの様に振り分ければよいかの議論を進めたい。

以 上